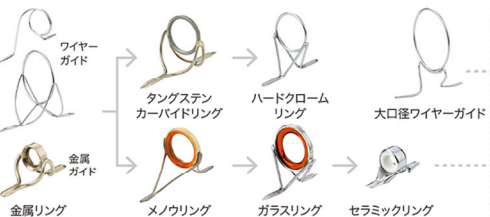


Fuji ガイド史

※全ガイド史ではなく、代表作の抜粋です。



リング材質の強化



金属リング
作りやすいため最初に量産されましたが、磨耗して溝がきたり、腐食・劣化によってラインにキズをつけやすいのが欠点でした。
ラインで削られた溝



メノウ・ガラスリング ※発売完了
メノウは硬質で、鏡面状に磨くことも可能でしたが、衝撃に弱く割れやすいため、実用には向きませんでした。割れやすいのはガラスも同様でした。



タングステンカーバイドリング ※発売完了
極めて硬質で、ヤスリでも削れないほどでしたが、高比重で表面がザラつきやすく、しかも高価でした。



ハードクロームリング
キズつきやすいステンレス製の金属リングのため、超硬質のハードクロームをメッキにしたものが開発されましたが、非常にコスト高にも関わらず、通常メッキと識別できないために過当競争が起ころ、やがて全体の品質が下落してしまいました。



セラリング ※発売完了
セラミック（磁器）は、硬さ・スベリともに兼備しており、ガイドリングへの適性は既に認められておりましたが、1964年にFujiが開発したショックリング構造によってリング割れが激減したため、急速に世界に普及しました。



ハードリング
超硬質で軽いアルミナを、さらにガイドリング用に改良。フライングセラミックリング装着ガイドの愛用者を世界に激増させました。現在は、改良型ハードリング“O”リングに変わっています。



SiCリング
硬さ・スベリ・軽さ・強さ・そして摩擦熱を逃す放熱性というガイドリングに求められる総合的性能において、TORZITE登場までの30余年の間、量産品として最高レベルを誇ったシリコンカーバイド製リングで、現在も安定感抜群です。



ゴールドサーメットリング ※発売完了
セラミックと金属の複合素材で、衝撃に強く、割れにくい、薄く設計することができました。また、素材そのものが金色で、色が剥がれ落ちることがなく、高級感あるルックスから、非常に根強い人気がありました。



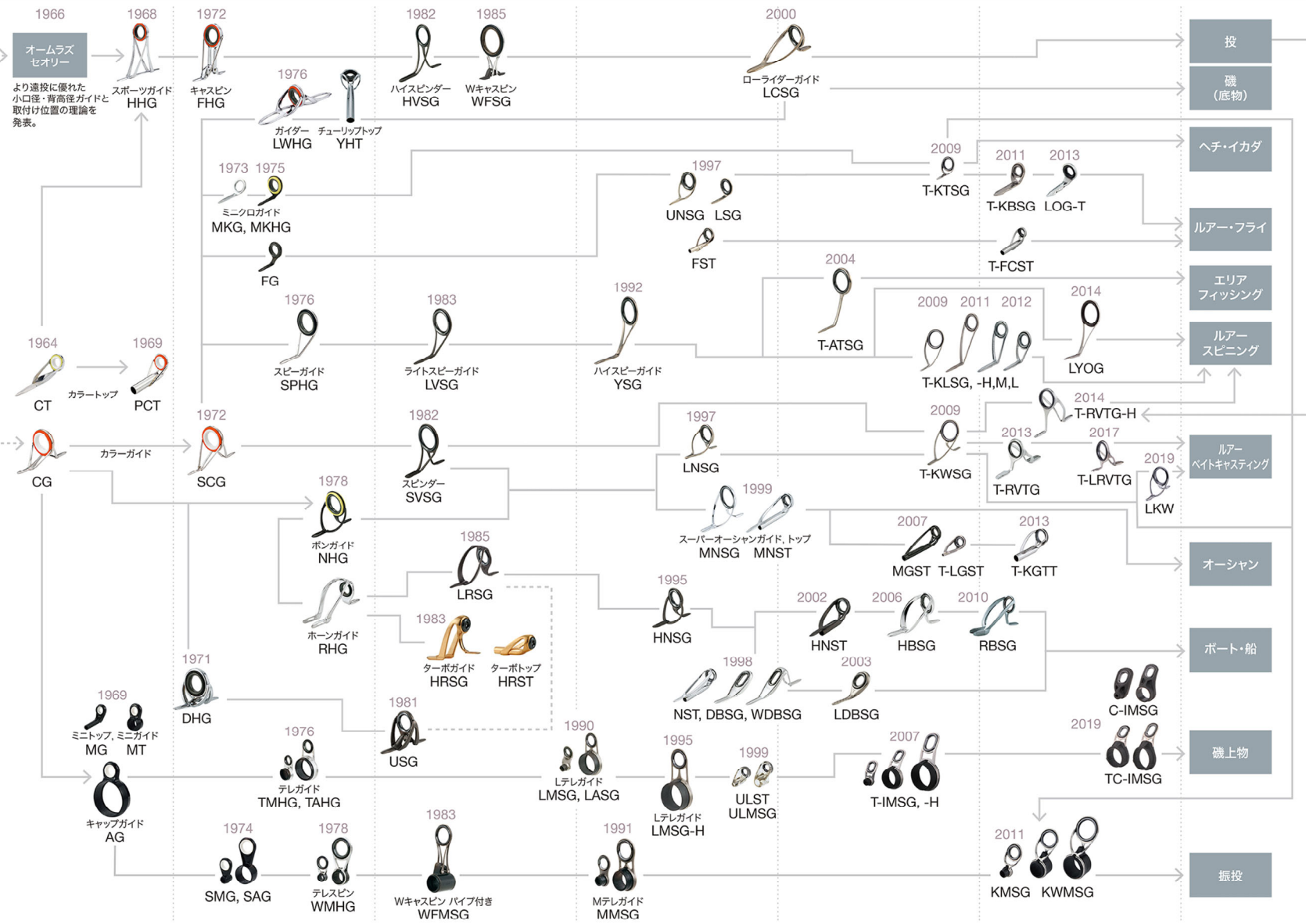
TORZITEリング
総合的強度がシリコンカーバイドを上回る新開発セラミックリングにより、極限のスリム化・軽量化を実現。緩やかにラウンドした断面形状と、究極の鏡面仕上げによって極めてラインに優しく、耐摩耗性もSiCと同等です。



ルビー・サファイヤリング
美しさだけでなく、スベリ・硬さなど、ガイドリング用としての実用性も優れており、天然石とほぼ同じ結晶を工業的に作り出した超高級リングです。通常品と比べて桁違いに高価でも、限定品で完売してしまう大人気商品でした。



※ルビーガイドは2017年に復刻
※サファイヤガイドは発売完了



万能型から専用型へ

ロー付け部分は、品質が不安定で変質しやすく、特に海水に触れると破損しやすくなります。Fujiカラーガイドが爆発的に世界市場に広まったのは、リング材質が優れているだけでなく、フレームにロー付け箇所がいっさい無い組み立て構造だったためです。そしてFujiボンガイドでは、ステンレス板を特殊プレス加工することで一体型構造フレームの開発に成功。その後も、強度を落とさず軽量化を実現するFUJIガイドフレームの進化は続いています。スピニングリールの発明、カーボンロッドの登場、ナイロン、フロロカーボン、PEと続いた新素材ラインの出現などによって各タックルは目覚ましく進化を遂げ、ジャンル別の細分化も進み、ロッドも兼用型から専用型への傾向をたどりました。Fujiガイドも、かつて良いガイドの条件であった「強い・スベリが良い、熱を逃がす」に「軽い、糸絡みにくい」という要素を加え、さらに各専用ジャンルにおいてニューガイドコンセプト、K-Rコンセプトそれぞれの理論に基づき、単体のみでなくシステムとしてのロッド性能向上を目指し、現在も開発が続いています。